

第15回 人権ショートレター 入賞作品 発表



人間らしく生きること、差別や偏見に対して感じたこと、お互いの個性を認め合うことなど、「人権」を大切にする気持ちを手紙に…。全国から708通の応募がありました。入賞作品を紹介します。(敬称略、佳作はタイトルのみ)

問合せ＝人権施策推進課(内線334)

小・中学生の部

最優秀賞 「それぞれのこせい」
大和郡山市 川畑 優奈(9歳)
わたしは運動が苦手だけど、運動がとくいな子もいる。わたしは本を読むのが好きだけど、あみものや絵をかくのが好きな子もいる。みんなそれぞれとくいなことがちがってもいいと思う。

優秀賞 「勇気がなかった自分へ」
大和郡山市 上原 優花(12歳)
私は、理由もなくいじめられていた彼を見捨ててしまった。本当は声をあげて注意できたのではないか。そこへ来て声を出し、守った友人がいた。私も勇気を出せる人になりたい。あの時のような後悔はいやだ。

優秀賞 「言葉のおもみを考えて」
大和郡山市 竹田 美樹(14歳)
殺す、死ぬ、消えろって簡単にネットに書きこみしているけど、本当に目の前で言ったらどうなるか考えてほしい。ひどい言葉を簡単に使わないでほしい。どんな人が見ても読んでも伝わる言葉を発信してほしい。

優秀賞 「この世は本当に人権を守れているのだろうか」
大和郡山市 中野 綾太(11歳)
ぼくは、この世が完全に人権を守れているとは思いません。なぜなら、ニュースやテレビで暴力やいじめ、親のぎゃくたいなどで自殺したり死んだりしている人を聞いたことがあります。ぼくも人権を守る一員になりたい。

佳作

「人権を大切に」 大和郡山市 匿名(13歳)
「じいちゃんへ」 愛媛県今治市 瀬野 快(9歳)
「でんしゃのせきのゆずりあい」 大和郡山市 石阪 優季(6歳)
「命」 大和郡山市 山口 礼人(11歳)
「先生へ」 大和郡山市 廣 笑瑠(10歳)

高校・一般の部

最優秀賞 「障がいのある君へ」
長野県長野市 藤井 萌香(27歳)
とある公園。泥だらけの君を指差して笑う子どもたちに向かって君は、満面の笑顔で「一緒に遊ぼう」と声を掛けたね。いじわるをいじわるで返さない。差別を差別で返さない。そんな君は誰より素敵な人間なんだよ。

優秀賞 「のりちゃんへ」
福井県福井市 山下 さやか(35歳)
皆がいじめを見て見ぬふりをする中「私は助けてあげられないけれど、さやちゃんと一緒にいじめられることはできるよ」とにっこり笑って話しかけてくれたのりちゃん。あのとき泣いたのは嬉しすぎたからです。

優秀賞 「笑顔のビリゴール」
東京都葛飾区 奥田 益也(72歳)
徒競走で目は孫のお前だけを追った。でも途中から視界にはもう一人の子がいた。お前は足に軽い障害のある子を振り返って走り、最後は一緒にビリでゴール。笑顔が一等賞より輝いていたよ。孫でいてくれてありがとう。

優秀賞 「知らない誰か」
愛知県みよし市 森本 礼香(19歳)
駅のホームで舌打ちされた。知らない人だったけど悲しくなった。電車の中で「ありがとう」と言われた。知らないひとだったけど嬉しくなった。

佳作

「我が孫へ」 群馬県渋川市 轟木 信也(62歳)
「使わない言葉」 愛知県みよし市 森本 礼香(19歳)
「無題」 大阪府吹田市 山本 由美子(65歳)
「インターネット世代へ」 大分県大分市 羽田野 正弘(59歳)
「人生」 埼玉県さいたま市 滝澤 有咲(19歳)

広 告 欄